

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：北海道土質試験協同組合

- ・北海道土質試験協同組合 ・協同組合土質屋北陸 ・関東土質試験協同組合
 - ・中部土質試験協同組合 ・協同組合関西地盤環境研究センター ・協同組合岡山県土質試験センター
 - ・協同組合島根県土質技術研究センター・協同組合広島県土質試験センター ・宮崎県地質調査業協同組合
- なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。

[活動状況]

北海道土質試験協同組合

<http://www.src.or.jp/>

北海道大学農学部の先生と学生が 12 月 7 日 (金) に授業の一環として当組合において実習を行いました。当組合での実習は、土質試験とコンクリート配合試験の見学を中心に行われました。コンクリート試験では、実際にミキサーで練混ぜ試験を行いプレーンコンクリート・AE コンクリート (AE 減水剤使用) の違いをスランプ試験・空気量試験からフレッシュコンクリートの性状を体験し、材齢 1 年以上経つコンクリートの圧縮試験で大きな音とともに破壊するコンクリートに驚き実習を終えました。 (文責：折笠 章)



コンクリート試験実習状況

協同組合土質屋北陸

mail to : info@doshitsuya.or.jp

長崎<出島・表門橋>視察レポート

- 【期 日】 2018年12月4日～5日 【場 所】 長崎市 出島
 【参加者】 市山、矢野、滝田、田中、古一、森川の組合役員と加賀建設・鶴山さんの7名
 【現地参加者】 渡邊竜一 (株式会社ネイ&パートナーズジャパン代表・表門橋設計者)

松尾大介・江口忠弘 (出島ベース事務局) 嘉松寿夫 (長崎市・土木部)

2018年6月28日に金沢21世紀美術館シアターで「ふたたび海を渡る橋 BRIDGE」上映 & トークショーを開催しました。その時に感銘を受け、橋の構造の素晴らしさ、景観との一体感、デザインなど、それだけではなく、地域の人々と公共事業の関わりを実際に観てみようということで長崎<出島・表門橋>視察企画しました。



この日のために東京から長崎へ駆けつけていただいた設計者の渡邊さんから、橋のコンセプトや構造など直接レクチャーを受けることができ、本当に有意義な研修となりました。 (文責：森川和重)

中部土質試験協同組合

mail to : info@geolabo-chubu.com

● 第 18 回技術講習会を実施しました。

当組合では、2年に1度の頻度で主催している技術講習会（後援：(一社)中部地質調査業協会）が、第18回を迎えました。今回の講習会（H30年12月5日）では、地盤工学分野から豪雨災害に取り組んでおられる名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科 小高 猛司 教授に「豪雨災害と河川堤防の浸透破壊」として、平成30年7月豪雨災害被害調査で判明した事象・課題を解説していただきました。小高先生は、現在、地盤工学会本部総務担当理事に就任されており、学会の災害連絡会議幹事長も兼務されていますので、非常にタイムリーでした。

ご講演では、主として河川堤防を対象として今後の豪雨に対する備えに関しても参考となる豊富な話題をご提供いただきました。



ご講演の小高 猛司先生（名城大学理工学部教

特に、堤防の浸透破壊パターンについて、モデル実験を多用した動画を用いた講演で、103人を超える主として官公庁の技術者にとって、破堤のメカニズムを非常に理解しやすいご講演でした。なお、講演終了後のアンケートでは、大変好評だった回答が多く得られました。

なお、講演会終了後は、大型バス2台（65名参加）で組合試験所まで、移動して当組合の充実した試験設備の見学会を開催しました。見学会では、プロジェクターを多用して、判りやすい解説に努めました。

（文責：坪田 邦治）

[不飽和三軸圧縮試験機導入]

中部土質試験協同組合

mail to : info@geolabo-chubu.com

●不飽和三軸試験を導入いたしました。

かねてより発注しておりました不飽和三軸圧縮試験機を導入することができました。今期は年度当初に多くの不飽和三軸試験が発注されましたが、その需要には間に合いませんでしたが、当組合の試験メニューに、New Face が登場しました。試験機メーカーは、東京試験工業株式会社に作製を依頼しました。一般的に、飽和度が低下することで、地盤の有するせん断力が増加するとされており、盛土の設計には、不飽和状態にある土のせん断強度を見込んで、効率的な設計を実施することが有効であると考えられています。このことから、今後も継続して不飽和三軸試験が発注されることが考えられます。

（新規に導入した不飽和三軸試験機）



〈主たる仕様〉	
・ 载荷速度：0.01～10 mm/min	
・ 载荷容量:10kN（ボールスクリュージャッキ）	
・ 载荷ストローク：150 mm	
・ 空圧制御機器一式：側圧系、背圧系、真空系	
・ 差圧計:富士電機 FCX (0～250mmHg)+基準水槽	1台
・ 体積変化測定装置：ロードセル式50g用	1台
・ アンプユニット：アンプ5個、DVメーター1個	1式
（※アンプ：TEAC製DT-700T、ノイズF内蔵）	
・ 脱気水槽	2個
・ 三軸セル：セル内径φ200mm×内高380mm	1台
・ 耐圧ロードセル、側圧計、間隙水圧計、変位計	
・ 内セル：φ50mm×H100mm用	1個

（文責：坪田 邦治）

[平成 30 年度 土質試験管理者認定試験結果]

ジオ・ラボネットワークが立ち上げた「土質試験品質確保機構（会長：西垣 誠先生，副会長：西形 達明先生，杉井 俊夫先生）」では、「土質試験に関する資格に特化した土質試験管理者」の認定制度を導入し、「土質試験データの品質確保とともに，その技術や豊富な知識を次世代に繋いでいく」ことの出来る土質試験管理者を育成し，ひいては試験技術者の地位向上に寄与していくべきこの制度を昨年度からスタートさせている。

今期は第 2 回目の認定となり，平成 30 年 11 月 16 日に面接試験が行われ，12 月 20 日に合格発表がなされました。ジオ・ラボネットワーク会員の受験生で，下記の方々が認定されました。

誠にありがとうございました。今後のご発展を祈念しています。

【2018 年度土質試験管理者認定試験合格者】

- | | |
|-------------------|---------|
| ・北海道士質試験協同組合 | 宇山 哲司 氏 |
| ・協同組合土質屋北陸 | 江守 達弥 氏 |
| ・関東土質試験協同組合 | 石倉 仁土 氏 |
| ・関東土質試験協同組合 | 松崎 公一 氏 |
| ・中部土質試験協同組合 | 小倉 教弘 氏 |
| ・協同組合関西地盤環境研究センター | 橋本 篤 氏 |

[平成 31 年度 地質調査技士受講者支援の開始]

土質試験管理者認定を受ける資格要件として，全国地質調査業協会連合会の国交省技術者資格登録規定に登録されている「地質調査技士」があります。各組合の試験職員への当該資格取得支援活動として、「平成 31 年度地質調査技士受講者支援」を昨年 12 月より 6 組合 8 名の方々に開始しました。

一般に組合試験所技術職員の皆さんは，土質試験に関しては経験豊富ですが，ボーリング現場作業や調査手法，解析手法等に関しては中々経験する機会が少ないと思われ，特にこれらの分野についての基礎知識を習得することを主眼としたアドバイスを行っていきます。また，試験自体にも不慣れな受講者もいると思いますので，試験テクニック，試験に際しての注意事項など，どのような試験にも関わる基本事項を合わせて確認していけるように支援したいと考えております。

土質試験技術者は土質試験に精通しているにもかかわらず，対外的にその技術力を評価されにくい現状があり，「地質調査技士」資格取得の大きな目的は「土質試験管理者認定」受講の為ではありますが，併せて地質調査業務全体に対する見識を深める一助になると考えています。

可能な限り受講者の力量に合わせた支援を目指してまいりますので，受講者の皆さんには試験合格を目指して，頑張ってください。

[全地連「技術フォーラム 2019」岡山への論文投稿支援の開始]

第 30 回“全地連「技術フォーラム 2019」”が，岡山市で開催される予定です。論文募集は，新年度から開始されますが，ジオ・ラボネットワーク会員の試験技術者におかれましては，日頃の試験技術に関する各種の工夫や，課題点に関して整理・発表することは，技術者の成長に重要なことと思われまます。併せて，地質技術者が一堂に会して，各種の情報交換できることも，日頃の技術的な悩み等を解消し，人脈を形成する絶好の場所ともいえます。これからのことから，ジオ・ラボネットワーク運営委員会では，論文作成・発表の後方支援を行いますので，遠慮なく事務局までご相談ください。